

小・中・高等学校の10年間を見通し、めざす子どもの姿を明確にした授業改善への挑戦

～「鶴岡版 CAN-DO リスト」の効果的な活用を目指して～

小学校の取組

1 英語教育、外国語活動の学習内容及び学習評価の工夫

(1) 小・中・高等学校の10年間を見通した「鶴岡版 CAN-DO リスト」を活用して、めざす子どもの姿を明確に示し、系統性のあるカリキュラム、指導計画及び評価規準を作成

高校3年

Listening 聞く

・ナチュラルスピードの英文を聞いて大まかに内容を理解することができる。【聞く-高3①】

・様々なジャンルの英文を聞いて内容を理解することができる。【聞く-高3②】

中学3年

・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。【聞く-中3①】

・ゆっくり話されれば、やや抽象的な内容の英語を理解することができる。【聞く-中3②】

小学6年

・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。【聞く-小6①】

・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。【聞く-小6②】

鶴岡版 CAN-DO リスト

山形県「小中高連携プログラム」
「世界にははたけ！ 出陣さんさんプロジェクト」CAN-DOリスト（鶴岡版）Ver.5

ふるさと鶴岡を愛し、いのち輝く人間の育成

★人とのかわりを通して、逞しさ・優しさ・賢さを育む
★英語を通して、ふるさと鶴岡を見つめなおす

学年	Listening 聞く	Speaking 話す	Reading 読む	Writing 書く	ふるさとを学ぶ
高等学校	・ナチュラルスピードの英文を聞いて大まかに内容を理解することができる。【聞く-高3①】 ・様々なジャンルの英文を聞いて内容を理解することができる。【聞く-高3②】	・簡単な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-高3①】 ・簡単な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-高3②】	・簡単な英語で、主要な内容を理解することができる。【読む-高3①】 ・簡単な英語で、主要な内容を理解することができる。【読む-高3②】	・簡単な英語で、主要な内容を理解することができる。【書く-高3①】 ・簡単な英語で、主要な内容を理解することができる。【書く-高3②】	・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-高3①】 ・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-高3②】
中学校	・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。【聞く-中3①】 ・ゆっくり話されれば、やや抽象的な内容の英語を理解することができる。【聞く-中3②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-中3①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-中3②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【読む-中3①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【読む-中3②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【書く-中3①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【書く-中3②】	・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-中3①】 ・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-中3②】
小学校	・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。【聞く-小6①】 ・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。【聞く-小6②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-小6①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【話す-小6②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【読む-小6①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【読む-小6②】	・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【書く-小6①】 ・身近な話題や日常生活の場面について、簡単な英語で話せることができる。【書く-小6②】	・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-小6①】 ・ふるさとに関する英語の表現や文化について、英語を通してふるさと鶴岡を見つめなおすことができる。【ふるさと-小6②】

単元の評価規準への活用

6年 “Hi, friends！ 2” Lesson1（4月）

単元の評価規準	
・自らある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしている。・31～100の数を聞いてわかり、言うことができる。・アルファベットの小文字とその読み方を一致させている。・ある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりできる。・世界には様々な文字があることを知っている。	【聞く-小6②】 話す-小6②【読む-小6②】 書く-小6①

※次ページ参照

鶴岡版 CAN-DO リスト

山形県「小中高大連携プログラム」
「世界にはばたけ！出羽さんプロジェクト」CAN-DOリスト（鶴岡版）Ver.5



ふるさと鶴岡を愛し、いのち輝く人間の育成

☆人とのかかわりを通して、逞しさ・優しさ・賢さを育む 鶴岡市教育委員会
☆英語を通して、ふるさと鶴岡を見つめなおす

めざす姿	様々な場面で適切にコミュニケーションをとることができるより高度なコミュニケーション能力の習得				
	Listening 聞く	Speaking 話す	Reading 読む	Writing 書く	ふるさとを学ぶ
高等学校 3年	・ナチュラルスピードの英文を聞いて大まかに内容を理解することができる。【聞く-高3①】	・抽象度や社会性の高い内容について口頭発表ができる。【話す-高3①】	・英字新聞など、生きた英語を読んで概要を理解することができる。【読む-高3①】	・抽象度や社会性の高いトピックについて論理のある英文を書くことができる。【書く-高3①】	多種多様な方法で「ふるさと鶴岡」を発信することができる。 【パフォーマンス】 ・プレゼンテーション ・パンフレット作成 ・印での発信 ・ディスカッション ・ディベート ・生徒による模擬授業など
2年	・何度が繰り返し聞けば、ナチュラルスピードの英文を聞いて大まかに内容を理解することができる。【聞く-高2①】	・聞いたり、読んだりした内容に自分の意見を加えて、伝えることができる。【話す-高2①】	・様々なトピックの英文を読んで内容を理解することができる。【読む-高2①】	・様々な話題について、まとまった量の英文を書くことができる。【書く-高2①】	
1年	・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。【聞く-高1①】 ・やや抽象的な英語を理解することができる。【聞く-高1②】	・聞いたり、読んだりした内容を相手に伝えることができる。【話す-高1①】 ・聞いたり、読んだりした内容についての意見交換をすることができる。【話す-高1②】	・まとまった量の英文を読んで概要を理解することができる。【読む-高1①】	・身近な話題について、まとまった量の英文を書くことができる。【書く-高1①】	

めざす姿	身近な話題や、自分の住む地域についてやり取りができるコミュニケーション能力の習得				
	Listening 聞く	Speaking 話す	Reading 読む	Writing 書く	ふるさとを学ぶ
中学校 3年	・まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。【聞く-中3①】 ・ゆっくり話されれば、やや抽象的な内容を理解することができる。【聞く-中3②】	・簡単な英語を用いて、聞いたり、読んだりした内容を相手に伝えることができる。【話す-中3①】 ・聞いたり、読んだりした内容について簡単な意見を交換することができる。【話す-中3②】	・強勢、イントネーション、区切りに注意しながら、英文を音読することができる。【読む-中3①】 ・身近な内容について書かれた、まとまった量の英文を読んで概要を理解することができる。【読む-中3②】	・簡単な英語を用いて、身近な話題について、まとまった量の英文を書くことができる。【書く-中3①】	鶴岡の名所旧跡、名産品、特産物についての紹介や簡単な意見交換をすることができる。 【パフォーマンス】 ・プレゼンテーション ・パンフレット作成 ・ふるさとクイズ ・Show and Tell など
2年	・やや長い英文を聞いて概要を理解することができる。【聞く-中2①】 ・身近な内容であれば、まとまった量の英文の内容を理解することができる。【聞く-中2②】	・身近な内容を相手に分かりやすく伝えることができる。【話す-中2①】 ・聞いたり、読んだりした内容について相手に伝えたり、意見交換をすることができる。【話す-中2②】	・強勢、イントネーション、区切りに注意しながら、英文を音読することができる。【読む-中2①】 ・簡単な英語で書かれた、やや長い英文を読んで概要を理解することができる。【読む-中2②】	・自分の考えや意見とその理由など、つながりのある複数の英文を書くことができる。【書く-中2①】 ・自分のことや身近な事柄について、簡単な表現を用いて書くことができる。【書く-中2②】	
1年	・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。【聞く-中1①】 ・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。【聞く-中1②】	・正しい語順で自己紹介や身近な事柄を英語で言うことができる。【話す-中1①】 ・身近なことに関する質問に適切に答えることができる。【話す-中1②】	・音と綴りの関係を理解し、正しい発音を身に付ける。【読む-中1①】 ・強勢、イントネーション、区切りに注意しながら、英文を音読することができる。【読む-中1②】 ・短い英語の文章を読んで概要を理解することができる。【読む-中1③】	・アルファベットの天文字・小文字を正しく書くことができる。【書く-中1①】	

めざす姿	身近な話題について積極的に聞いたり、話したりすることができるコミュニケーション能力の素地・基礎の育成				
	Listening 聞く	Speaking 話す	Reading 読む	Writing 書く	ふるさとを学ぶ
小学校 6年	・身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。【聞く-小6①】 ・身近なことに関する質問の意味を理解することができる。【聞く-小6②】	・簡単な表現を使った自己紹介や身近な事柄を英語で言うことができる。【話す-小6①】 ・身近なことに関する質問に答えることができる。【話す-小6②】	・単語を見て発音することに慣れ親しむ。【読む-小6①】 ・アルファベットの名前、音に慣れ親しむ。【読む-小6②】	・単語や簡単な英文を書き写すことに慣れ親しむ。【書く-小6①】	鶴岡の名所旧跡、名産品、特産物などを英語で言うことができる
5年	・身近で簡単な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。【聞く-小5①】 ・身近で簡単な質問の意味を理解することができる。【聞く-小5②】	・物の名前や自分の名前を英語でいうことができる。【話す-小5①】 ・身近で簡単なことについての相手の質問に何とか応じることができる。【話す-小5②】	・アルファベットの名前と音がわかることを知る。【読む-小5①】	・アルファベットの天文字や小文字、単語の書き方に慣れ親しむ。【書く-小5①】	【パフォーマンス】 ・インタビュー ・ふるさとクイズ ・道案内 ・ふるさとカルタ ・Show and Tell ・ポスター
3・4年	・外国語を通して友達や先生と関わることが楽しいという体験をつむ。 ・自分自身や身近な事柄を表す英語に慣れ親しむ。（聞く・話す） ・買い物、道案内など日常的によく使われる表現に慣れ親しむ（聞く・話す） ・他の言語や文化についての理解を深める。				

(2) 「郷土学習」を活用した「外国語科」の授業づくり

6年生では、年間指導計画に、郷土の魅力を発信する「鶴岡の魅力発見（総合的な学習の時間）」と関連させた単元を位置付け、英語で郷土のよさを伝える学習を行う。教材としては、Hi, friends! に Hi, friends! Plus を加えて、英語を読む・書く活動に活用していく。

指導計画		年間指導計画(6年生) 鶴岡市立京田小学校			
		1単位時間の学習(42時間)			
総合的な学習の時間① 月、単元名、 主な学習活動等	国語等の他教科 月、単元名、 主な学習活動等	11月	単元目標	単元の評価規準	教材
			Lesson5 Let's go to Italy.		Hi, friends2 Hi, friends plus 小文字, 表現 ★オリジナル 鶴岡に関する語句 身近な表現
			<p>★Let's try! <郷土学習> 鶴岡のお気に入りや伝え合おう① ・既習の語句や表現を使って、自分の思いを表現しようとする。 ・既習の語句や表現を使って、自分の思いを表現することができる。 ・郷土に伝わる伝統料理を作ることを通して、郷土のよさに気付く。</p>	<p>既習の語句や表現を使って、自分の思いを表現しようとしている。 既習の語句や表現を使って、自分の思いを表現できている。 郷土に伝わる伝統料理を作ることを通して、郷土のよさに気付いている。</p>	<p>【聞く-小6①】【話す-小6②】 【読む-小6①】</p>
			2月		
			Lesson8 What do you want to be?		Hi, friends2 Hi, friends plus アルファベット単語 職業の語句 就きたい職業を尋ねる表現
			<p>・積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。 ・どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現を聞いて理解し、答えることができる。 ・就きたい職業を尋ねたり答えたりする表現や、職業を表す語を読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。 ・世界には様々な夢を持つ同年代の子どもがいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉のおもしろさに気付く。</p>	<p>・相手意識を持って自分の将来の夢について紹介している。 ・職業を表す語を聞いたり言ったりできる。 ・就きたい職業について尋ねたり答えたりできる。 ・就きたい職業を尋ねる表現や、職業を表す語を読んだり書いたりすることに慣れ親しんでいる。 ・世界には様々な夢を持つ同年代の子どもがいることや、職業を表す語について英語と日本語の共通点に気付いている。</p>	<p>【聞く-小6①】【話す-小6②】 【読む-小6①】【書く-小6①】</p>
			<p>★Let's try! 学んだことを生かしてみよう <郷土学習> 鶴岡のお気に入りや伝え合おう②</p>		★オリジナル

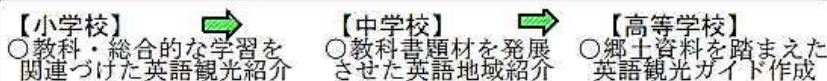
他教科等と関連した指導

- 3年生：社会科「鶴岡の特長を学ぼう」において学習した特産物の英語表現を学ぶ。
- 4年生：総合的な学習の時間「鶴岡の特産物を調べよう」において、英語でふるさと便を作成する。
- 5年生：国語科「町じまん」において学習した郷土のよさを英語で表現する。
家庭科「郷土料理」において、英語を使いながら郷土料理をつくる。

中学校・高等学校との連携

授業を中核とした小中高の連携強化（山形県英語教育改善プランから）

②郷土を発信する「郷土学習」（観光案内等）



※小・中・高合同のイングリッシュ・キャンプを実施

★Let's Try! <郷土学習>
～鶴岡のお気に入り伝え合おう①～

- 1 目標：・自分の思いがはっきり伝わるように発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。
 ・既習の語句や表現を使い、鶴岡の場所や食べ物を表す英語やそれらを紹介する表現を言ったり聞いたりすることができる。 【話すー小6①】、【聞くー小6①】
 ・鶴岡の場所や食べ物の英語表記を読んだり書いたりすることを通して、英語の文字に慣れ親しむ。 【読むー小6①】、【書くー小6①】
 ・英語を通して「ふるさと鶴岡」を見つめ直し、そのよさに気付く。

2 単元計画(4時間+15分×6=6時間扱い)

	内 容
1	日本語と英語の音の違いを確かめ、おすすめの方法や食べ物を表す表現を知る。 【モジュール学習1回】
2	既習表現を使い、「おすすめの方法チャンツ」を作り、表現に慣れる。 【モジュール学習2回】
3	「おすすめの方法キャラクター」を考え、既習の英語を使って紹介する内容を考える。 【モジュール学習1回】
4	「おすすめの方法キャラクター」を使って、おすすめの方法を5年生に伝える。 【モジュール学習2回】

- 3 主な表現：Let's go to ～. You can (eat / see / study / try / swim / play / buy / hear) ～.
 My name is ～. I'm ～. I live in ～. I like ～. Do you like ～?

- 4 教材：Hi, friends! 2 Lesson 5 Let's go to Italy. で児童が作成した、いろいろな国のよいところを紹介したポスター

- 5 他教科等との関わり：[総合的な学習の時間] 致道館学習（「庄内論語」素読、致道館訪問）
 [国語] パネルディスカッション「30年後の理想のまち～鶴岡～」(「未来の自動車」の発展学習)

- 6 期待する効果：・Let's go to Italy. の学習で、外国のよいところを知り外国への興味・関心を高めることができたことを受け、次は身近な自分たちの地域に目を向け、おすすめしたい場所について紹介する活動を行うことで、自分たちの住んでいる場所を深く知り、そのよさを再認識する。
 ・総合的な学習の時間や国語科で学んだ知識・技能を生かすことで、学んだことをつなげる。
 ・5年生に伝えることを目標とすることで、伝える必要感や分かりやすく発表するための工夫を促す。

- 7 その他：Lesson8 What do you want to be? を学習した後に、総合的な学習の時間で鶴岡の偉人について知る学習を行う。これを生かして「鶴岡のお気に入り伝え合おう②」で鶴岡の偉人を紹介する活動を行う。

2 時間割の編成

➤ 5・6年生「外国語科」の年間授業時数内訳

- 70時間 ⇒

・45分の授業	42時間 (例:※1)
・短時間学習(帯学習、モジュール学習) 28時間	(例:※2)

➤ 短時間学習の設定・内容

- 45分の授業で行うコミュニケーション活動の中で使用する語彙やフレーズを、ゲームやチャンツなどを通して繰り返し聞いたり言ったりする。45分の授業では、短時間学習で得た知識を生かし、児童の興味・関心に基づいた意味のあるやり取りを英語で行う。年間計画では **45分授業と短時間学習を組み合わせる計画し、相互の内容の関連を図る** ようにしている。

※1 42時間(35時間+7時間←7時間分は予備(余剰)時数の中から確保)

ア) 清掃時間終了後～5校時目の前(13:50～14:05) 15分間×2～4回/週

12:10	給食			
12:55	昼休み (チャイム 13:25) (なかよしタイム)			
13:30	※木曜日はロング昼休みで清掃なし。(チャイム 13:45)			
13:50	清掃	清掃	清掃	清掃
14:05	GOGOタイム (ノーチャイム)	⑤	GOGOタイム (Englishタイム or パワーアップタイム) (ノーチャイム)	
14:10	⑤	13:50～14:35 (ノーチャイム)	⑤	⑤
14:55	⑤ 14:10～14:55	⑥	⑤ 14:10～14:55	⑤ 14:10～14:55

※2 イ) 昼休み中(13:20～13:35) 15分間×3回/週

12:15	給食			
12:55	昼休み			
13:20	英語活動 4年モ	ロング昼休み	英語活動 5年モ	英語活動 6年モ
13:35				
13:45				帰りの会
				13:45
				14:00

➤ 活用している教材

Hi, friends! Hi, friends! デジタル教材 Hi, friends! Plus 絵カード 絵本
紙芝居 英語の歌の DVD など

➤ 成果

- 英語に触れる機会が増えたため、学習内容の定着度が高くなった。

- 短い時間なので英語が苦手な教員も取り組みやすく、特に中学年の児童は集中力の持続という点でも適切である。
- 短時間学習と 45 分の授業を組み合わせることで、定着が不十分だった学習内容を補充したり、活動で使用する語彙や表現に事前に親しませたりすることができるため、45 分の授業でのコミュニケーション活動に十分な時間をかけることができ、活動に深まりが見られる。

➤ 課題

- ほぼ毎日授業をすることになるため、教材研究や教材準備の負担がある。
- 大規模校の場合、同時刻に多くの学級で授業をすることになり、同じ教材を数多く準備する必要がある。
- 時間を確保するために清掃の時間を朝に移動するなど日課を変更したため、学校生活のリズムが荒ただしくなった。

3 小学校 3・4 年生の授業の実際【活動型】

➤ 実施時間

- **週2～4回のモジュール学習**を実施。Hi, friends! の内容を基にしながらモジュール学習を行っている。ただし、1単元のうち1～2回は45分の授業を行い、まとまったコミュニケーション活動を行う。

➤ 指導内容

- 絵本の読み聞かせや歌、チャンツ、ゲーム、クイズなどを通して「**聞くこと**」、「**話すこと**」を**中心にした指導**を行う。

絵本の読み聞かせ

- 物語に登場するものの英単語や英語での表現を自然に理解することができ、語彙力の高まりが見られる。また、絵本の絵や教師のジェスチャーや表情等を見ながら英語を聞くことで、何を言っているのか推測しながら聞く姿勢が育ってきている。

DVDを使用した動画の視聴

- 動画を見せながら英語の歌を聞かせることで、英語の単語や表現を知るとともに、発音やリズムを楽しく習得することができている。

文部科学省から配布された補助教材“In the Autumn Forest”と“Good Morning”

- 内容が3・4年生の発達の段階に合っており、楽しみながら動物の名前や形容詞を理解し、覚えることができている。

クイズ大会やカード交換

- 児童作成のクイズや、おすすめすることをカードに書いて Do you like ～? と尋ねながらカードを交換する活動を通して、自分から他者に進んで関わろうとしている。
- ルールが複雑な場合、コミュニケーションをとろうとする前に、活動が停滞する場面があるため、できるだけ簡潔に日本語でルールの説明を行うようにしている。

➤ ICTの活用

- パソコンと液晶ディスプレイ等を用いて、ALT と担任によるゲームなどのデモンストレーションを提示したり、DVD やデジタル教材の視聴を行ったりするなど、活動の支援や生きた英語（発音、表現等）の提供を行う。また、指導者用タブレットを活用して児童のコミュニケーション活動の様子を録画して児童及び指導者の振り返りや評価に活用している。

4 小学校5・6年生の授業の実際【教科型】

➤ 実施時間

- 45 分の授業……………週1回、年間 35～42 回実施
15 分のモジュール学習…週2～4回、年間 70～105 回実施

➤ 短時間学習の指導内容

- 45 分間の授業で学習した**語句や重要表現を復習**。語句や表現は同じだが、ジェスチャーゲームや神経衰弱等、**活動に変化をもたせ**、児童の興味・関心を持続できるように工夫。

➤ 読み・書きの導入

■ アルファベットの文字や単語の認識

- Hi, friends! を教材とした単元において、クイズやゲームを通して、児童の興味・関心を高めながら、自然に文字の認識を深めていった。
- 友達と一緒に人文字作りをしたり、**英語を発声しながら、空書き(ジェスチャー)をしたりする活動※**を通して、効果的に字形を認識、習得させることができた。

※ 例えば、「a」であつたら、「round」→「up up up」→「down」→「stop」と、音声をヒントに大きく空書きさせることで、字形を認識させる。

- 英語が苦手な児童は、単語にカタカナで振り仮名を振って発音しようとしていた。児童が興味を損なわず、英語嫌いにならないようにと考えて黙認した。このような児童に対する効果的な支援について検討する必要がある。

➤ 国語科と連携した授業

■ 郷土学習における、自他の伸びを確かめるための各自の思いを伝え合う活動

- 英語学習の経験年数が少なく、既習の語句や表現が少なかったため、自分が**「伝えたい内容」と「伝えられる内容」に大きなギャップ**があった。今後、授業改善が必要である。

■ 日本語と英語の音声の違いについての学習

- カタカナ語になっている日本語と英語の発音の違いについての学習は、児童にとって興味深いものであった。児童は、アクセントや音声の違いを集中して聞き取ったり、綴りと発音の関係に気付いたりすることができた。このように、**日本語と英語の関係や相違点等に気付かせる学習は、英語学習への強い動機付けになる**と考えられる。

■ 語順の違いなど文構造についての学習

- フレーズを学習する際に板書をし、どの単語がどんな言葉を意味するのかをある程度指導しておくことによって、日本語との文構造の違いに気付かせることができた。

- 文法重視で指導してしまうと興味が損なわれるので、意味を日本語で書くのではなく絵で示すなどの工夫が必要である。

■ 文字についての学習

- 「b」と「d」、「p」と「q」のように、**形が似ている文字は児童にとって判別が難しかった。**そのため、アルファベットを1字ずつ覚えさせようとはせず、「book」と「dog」のように、身近で慣れ親しんだ単語として提示し、**単語の中の文字として捉えられるようにする等の工夫**をしている。

5 学習到達目標を活用した指導・評価

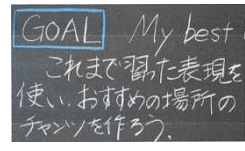
➤ 学習到達目標を活用した指導

【3・4年生】

- 児童自身が目標やめあてを意識して、学習に取り組むことができていた。
- 現在は英語に触れている経験年数がほぼ同じであるため、下の学年が上の学年を上回らないように学年に合った目標設定をすることが難しい。

【5・6年生】

- Today's Goal を確認してから授業をしているので、児童にとってのゴールが明確になり、安心、集中して活動に取り組む姿が見られた。
- 鶴岡版の CAN-DO リストを基に、その単元で評価する観点を特化して年間計画に明示したが、教材研究を十分にしていない状態で作成したこともあり、実際行ってみると修正すべきことが多々でてきている。



➤ 学習到達目標を活用した評価

■ 授業中の行動観察

- 曖昧になっていた目標設定を CAN-DO リストで示すことによって、目指すべきゴールから逆算して学習活動を組むことができた。
- 各学年の児童の実態を考慮した上で、系統性を重視しながら CAN-DO リストと照合し、年間指導計画を再検討し引き続き、見直しを図る必要がある。

■ 振り返りカードの分析

- 振り返りカードを活用し、一人一人の達成度や気付きなどの自己評価を記述式で行わせることによって、児童の内面を理解することができた。
- 互いの頑張りやよいところを認め合う活動を行うことで、次時への意欲につながった。

■ パフォーマンステスト

【5・6年】

- 高学年では「聞く・話す」ことのパフォーマンステストを試行したところ、学んだ表現を使って自分の思いを伝えられる児童が見られた。(1年間の定着率 現6年生：約96%)
- CAN-DO リストに基づき、授業中の活動の様子を見取ったり、学級担任や ALT 等との対話形式でパフォーマンステストを行ったりすることができた。
- 話す・聞くことのパフォーマンス評価を実施してきたが、効果的な評価方法については試行錯誤をしている段階である。

6 指導体制

➤ 指導体制の工夫

≪英語教育地域拠点事業の指定地域≫

- 加配措置による専科指導者と学級担任との連携

専科教員(校内の外国語教育のマネジメントを担当)

- ・ 外国語科・外国語活動を推進する取組を支援。年間の指導計画を作成するほか、職員研修の運営、指導法についての助言、研究通信の発行、外部人材との連絡・調整。

学級担任

- ・ 担当クラスの指導計画の作成、授業の実施、評価。

≪その他県下の7地域≫～補習等派遣事業の活用

- 英語が堪能な地域人材を非常勤講師として雇用

非常勤講師

- ・ 英語力を生かした指導の補助や教材の作成、指導法に関するアイデアの提供などの支援。ALT等のネイティブ・スピーカーによるティーム・ティーチング体制で実施できるよう取組を支援。

外部人材等の活用

【重点施策1：国の指定地域1地区】

地域を限定した小中高連携（鶴岡地区）

<ポイント>

授業を中核とした小中高の連携強化

<メリット>

拠点校における次期学習指導要領改訂に向けた早期化・教科科へ対応

<具体的な取組>

- 10年間の「系統性」あるカリキュラム、
【小(3～6年) + 中(1～3年)】+ 高(1～3年) 計10年
- 指導計画と評価を実施

専科配置



学級担任



【重点施策1：小学校外国語活動 活性化】 「外国語活動フォローアップ事業」の展開

<ポイント>英語を指導できる日本人の外部人材を講師招聘

<メリット>教員の指導力向上と児童の英語力向上

<具体的な取組>

県内7地区
1中学校区内
3小学校に配置

郷土資料の
活用
(観光案内等)



7 小学校での成果等総括

➤ 成果

- 英語好きになるとともに、異文化理解が進み、視野が広がってきた。
- ALTの英語表現に対し、ジェスチャーや表情、言葉の抑揚等を手がかりにしなが、積極的に理解しようとする児童が増加。

- 英語に対する抵抗感がほとんどない。
- 文字を見て読める児童が増加。
- フォニックスを行うことで、音をブレンディングし、単語を発音できるようになってきた。
- 英語が身近になってきており、授業外の時間でも、廊下であった時のあいさつを英語でする児童や、身の回りのものの英語での言い方を質問し、言ってみようとする児童も多くなってきた。
- 中学年では「読む・書く」ことに特化した学習活動は実施していないが、絵カードや板書の工夫により、自然に表記と意味を結び付けている。

➤ 今後の課題

- 児童にとって必要感のある教材提示になるよう工夫することで、興味・関心を高められるようにしている。さらに、同じ活動を長時間行うのではなく、活動の途中によかったところをビデオ等で紹介したり、どのようなことに気を付けたらよいか再確認したりする場の設定をするなど、「視覚化」、「焦点化」、「共有化」等の工夫を行いながら指導する必要がある。

中学校の取組

1 小学校で「教科型」を経験した生徒の違い

- 教室英語に慣れている。
- 英語のリスニング能力が高い

2 導入期での指導

- 指導事項を一方向的に説明するのではなく、実際の使用場面を意識させながら発話練習を多く取り入れるなどの導入を行うよう心がけた。また、生徒の発話機会を増やすため、授業中になるべく多く英語を使用するように心がけた

3 言語活動の充実

- 4技能について精緻に分析された個票を活用して、各個人に指導を行うことで、生徒のモチベーションの向上につなげている。
- 昨年度の結果から、総じて、「話す」以外の3技能のうち、ライティングの能力が高く、リスニングの能力が低いことが分かった。そのため、授業において**英語担当教員の英語使用量を増やしたり、有意なコミュニケーション活動をできるだけたくさん実施**したりするなどの授業改善を行っている。今後は、昨年度の外部試験と本年度の試験結果を経年比較し、課題を明確にし、解決に向けて具体的な取組を検討していく予定である。

4 主な取組

- 校内に**研究推進委員会を設置**し、共通認識及び理解を持って研究を進めており、**週時程の中に、教科部会の時間を設定**したことで、授業内容や特設英語についての話し合いを定期的を実施。

- **特設英語**については、**英語科教員とクラス担任により、ティーム・ティーチング指導**を行うことで、よりきめ細かな指導ができるようになった。
- ある程度の長さの、新出英文を読んで内容を把握するようなリーディングテストを学期に2回程度実施している。生徒のパフォーマンスを5段階で評価し得点化している。当該の観点の評価点に20%程度の割合で組み入れている。
- 各単元において、目標（生徒の目指す姿）を意識して指導するようになったものの、CAN-DOリストの活用の仕方について各教員に周知しきれていない。既存の「鶴岡版 CAN-DO リスト」を効果的に活用するためには、**生徒の実態に応じた CAN-DO リストへの改善**が求められる。

高等学校の取組

1 発表、討論・議論、交渉等の高度な言語活動

- 様々な科目において、生徒に対し英語で語りかけ、発問するとともに、生徒が英語を話したり、書いたりする機会を増やすことにより、英語を学ぶ意欲向上につながっている。
- 英語が得意な生徒にとっても苦手な生徒にとっても、既習事項の徹底理解を念頭に置いた指導を展開することにより、不安を感じさせず、自信を生み出させている。
- 「趣味などについて原稿作成し、発表する」といったスピーチや、「教科書での既習の内容をふまえてそれを発展させた内容（たとえば睡眠と学習効果の関係性など）を各自考え、聴衆に対して発表する」といったプレゼンテーションなどを行い、言語活動の充実に取り組んでいる。

2 主な取組

- 学校設定科目である **Speak Out** の実施によって、一人一人の生徒がスピーチやプレゼンテーションで英語表現することを見据えて学習に臨むようになり、語彙や文法の重要性を認識し、英語学習全てに意欲的に取り組むようになってきた。人前でアウトプットをする経験を重ねることは、発表活動に抵抗をなくすとともにプレゼンテーション力をつけることにつながることで教員間で共有されている。
- 今後も、ペア活動、グループ活動を通して英語を実際に使う場面、全員がコミュニケーション活動に参加する場面を多用する。パフォーマンステストを評価対象とすることを事前に生徒に伝えておき、発表する力を意識して日頃の活動に取り組むことができるようにする。

教育委員会の取組

1 小・中・高等学校一貫した取組

- 鶴岡市が、小・中・高等学校の10年間を見通した「鶴岡版 CAN-DO リスト」を作成し、英語教育においてめざす子どもの姿を示した。それにより、各学校において、ゴール段階での具体的な子どもの姿を思い描いた単元づくり、日々の授業改善が進められている。さらに各学校

では、「鶴岡版 CAN-DO リスト」に基づいて各学年の単元目標を再構成する作業をし、CAN-DO リストの作成と年間計画への反映を進めている。今後とも、各学校がそれぞれの児童生徒の実態に応じた目標設定の際に活用できる資料を作成していきたいと考えている。

2 教育委員会の役割

《鶴岡市教育委員会》

- 小学校教員用に「Class Room English 集」を作成し、できるだけ英語を使うような授業づくりを推進するとともに、短時間学習の授業公開や担当指導主事によるモデル授業などを行い、指導法に関する研修を深めている。
- 中学校では、研究開発校の英語担当者だけでなく、市内の英語教員の代表者による連絡会を立ち上げ、中学校間での情報交換体制も整備していく必要がある

《山形県教育委員会》

- 運営指導委員会の開催により、研究の方向性の確認や小・中・高等学校の取組についての情報交換及び協議の機会とする。
- 研究校を対象として小・中・高等学校の子どもたち合同でのイングリッシュキャンプを実施し、学習の成果を発揮したり、学習意欲の向上を図ったりする機会をもっている。
- 1年目に引き続き、「成果発表会」を開催し、研究成果を他校に発信する機会を確保していく必要がある。さらに発表において、研究内容とともに、その成果としての児童生徒の具体的な姿を発信できるように、児童生徒の評価方法等を工夫する必要がある。



〔総括・今後の方向性〕

- 小・中・高等学校の10年間を見通したCAN-DOリストの作成により、各校種及び各学年における目標が明確になるとともに教員間で共有されている。パフォーマンス評価等の学習評価についての意識も一層高まっている。
- CAN-DOリストが、各校種、各学校の年間計画へ十分に反映されていない現状もある。今後も、各学校が、小・中・高等学校を見通しためざす子どもの姿に向かって、言語活動のさらなる充実を図るとともにCAN-DOリスト等の活用による評価の工夫に向けた授業改善を行えるよう、効果的な取組の発信等、情報共有の場の確保に努める必要がある。